

やまとの環境

概要版

— 環境基本計画年次報告書 —
令和4年度版（令和3年度実績報告）



大 和 市

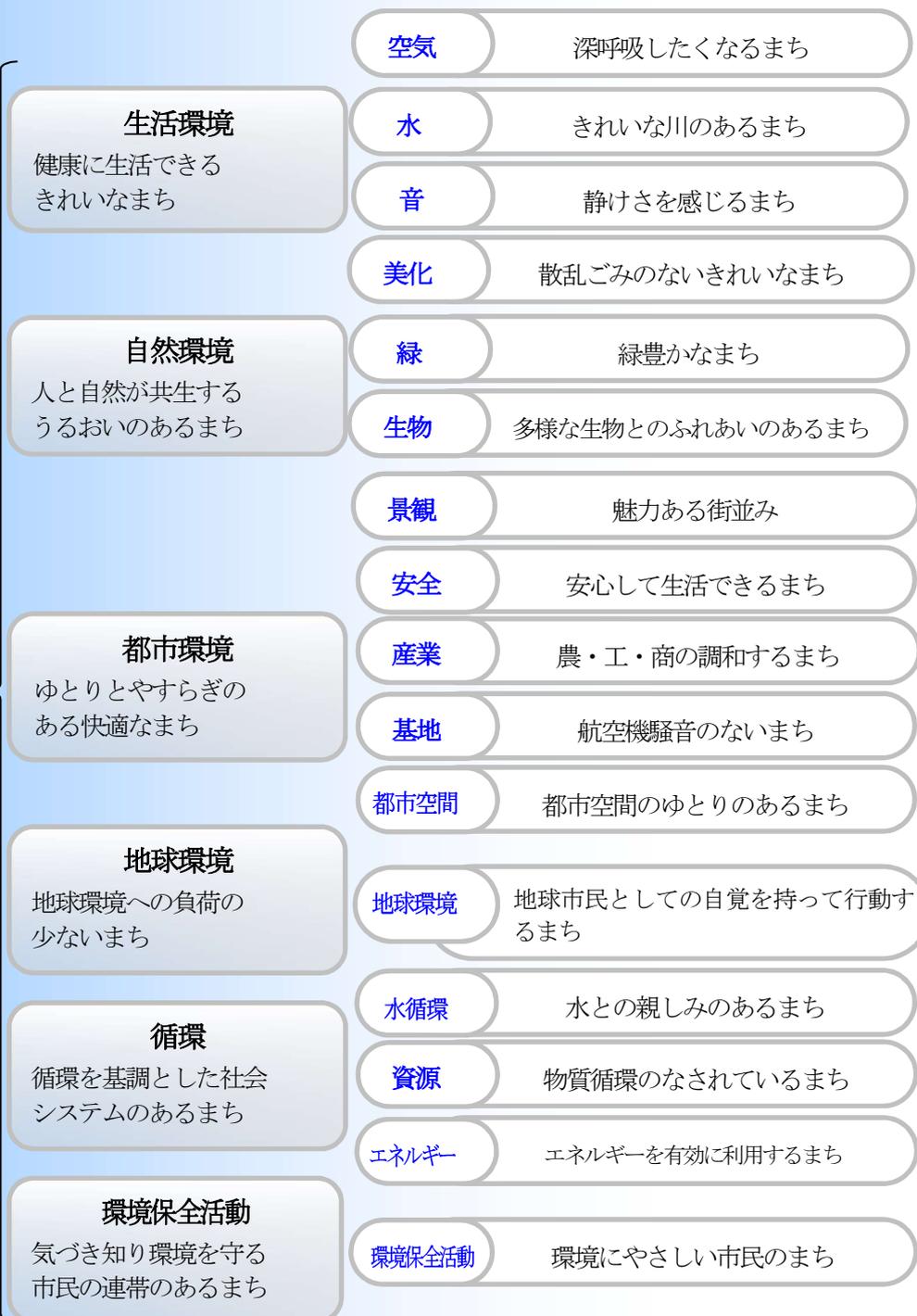
やまとの環境（大和市環境基本計画年次報告書）について

やまとの望ましい環境像、「自然の恵みを取り入れた、健康に生活できる、一生を安心して暮らせるふるさと」の実現のために、大和市では平成10年度に環境基本計画を策定しました。平成29年度には、目標設定水準や施策の見直し、地球温暖化対策実行計画との総合的な管理の推進などを踏まえ、2回目の改定をしました。

本計画では、目標の達成度や、施策の進行状況を定期的に把握・評価し、必要に応じて見直しや修正を行います。このことから、やまとの環境の現況と、環境基本計画に基づく施策の進行状況等を明らかにするため、ここに年次報告書として取りまとめ、公表することにより、情報の公開と共有を図るものです。

自然の恵みを取り入れた、健康に生活できる、一生を安心して暮らせるふるさと

望ましい環境像の実現



《指標項目についての進捗状況の一覧》

●目標値は令和9年度のものです。

各環境要素の評価一覧

<※着色部は目標未達>

環境要素	指標項目	現況値及び目標値	R2 年度数値	R3 年度数値
① 空気	二酸化窒素濃度	28 年値 0.032ppm	0.030ppm	0.027ppm
		目標値 0.04ppm 以下		
② 水	BOD (生物化学的酸素要求量)	28 年値 境川 1.6mg/ℓ 引地川 1.4mg/ℓ	境川 1.9mg/ℓ 引地川 1.3mg/ℓ	境川 1.4mg/ℓ 引地川 1.1mg/ℓ
		目標値 境川 3.0mg/ℓ以下 引地川 2.0mg/ℓ以下		
③ 音	市内全調査地点で環境基準をクリア	28 年値 50%	67%	67%
		目標値 100%		
④ 美化	「散乱ごみの少ないきれいなまち」だと思ふ市民割合	29 年値 23%	市民 51% 事業者 50%	市民 53% 事業者 45%
		目標値 50%		
⑤ 緑	保全緑地契約面積等	28 年値 26.2ha	26.2ha	26.2ha
		目標値 26.2ha		
⑥ 生物	「身近に多くの種類の動植物とのふれあいのあるまち」だと思ふ市民割合	29 年値 33%	市民 38% 事業者 35%	市民 40% 事業者 38%
		目標値 50%		
	市内でミンゼミの生息が確認されていること	28 年値 生息を確認	生息を確認	生息を確認
		目標値 生息を確認		
⑦ 景観	「魅力ある街並みを持っているまち」だと思ふ市民割合	29 年値 11%	市民 31% 事業者 25%	市民 31% 事業者 26%
		目標値 40%		
⑧ 安全	各環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数	28 年値 3 種類	3 種類	3 種類
		目標値 0 種類		
⑨ 産業	環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合	29 年値 23%	51%	58%
		目標値 50%		
⑩ 基地	航空機騒音に係る環境基準の達成率	28 年値 0%	60%	60%
		目標値 100%		
	航空機騒音を軽減させるよう取り組む	28 年値 取組んでいる	取組んでいる	取組んでいる
		目標値 取組んでいる		
⑪ 都市空間	一人当たりの都市公園等面積	28 年値 6.63㎡	6.95 ㎡	6.88 ㎡
		目標値 6.8㎡以上		
⑫ 地球環境	温室効果ガス排出量削減率 (2013 年度比)	2013 年値 (1343.4 千 t-CO ₂)	23.2%	-
		目標値 46%削減		
⑬ 水循環	雨水貯留槽購入費補助申請累積件数	28 年値 428 件 (基)	462 件 (8 件)	470 件 (8 件)
		目標値 650 件 (基)		
⑭ 資源	資源化率	28 年値 26.7%	29.6%	29.2%
		目標値 32.2%		
	市民一人一日当たりの家庭系ごみ排出量	28 年値 435 g	438g	421g
		目標値 438 g 未満		
⑮ エネルギー	住宅用太陽光発電システム補助累積件数	28 年値 1408 件	1789 件 (66 件)	1862 件 (73 件)
		目標値 2500 件 (年間 100 件程度必要)		
⑯ 環境保全活動	やまとみどりの学校プログラムへの参加校	28 年値 28 校	22 校	21 校
		目標値 市内全校(28 校)		
	「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合	28 年値 20%	市民 41% 事業者 42%	市民 38% 事業者 34%
		目標値 50%		

令和3年度時点で目標未達項目は11項目、令和2年数値に対して悪化している。

④美化、⑥生物、⑦景観、⑨産業、⑯環境保全活動のアンケート回答はH29年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。

⑫地球環境の温室効果ガス排出量の推計は、統計資料などを用いて作業する必要があることから、把握できる排出量の情報は2年遅れとなります。

⑬水循環、⑮エネルギーは累計値となっており、()内は単年当たりの件数

生活環境

1.「空気」

目 標： 深呼吸したくなるまち

数値目標： 二酸化窒素濃度 0.04ppm 以下

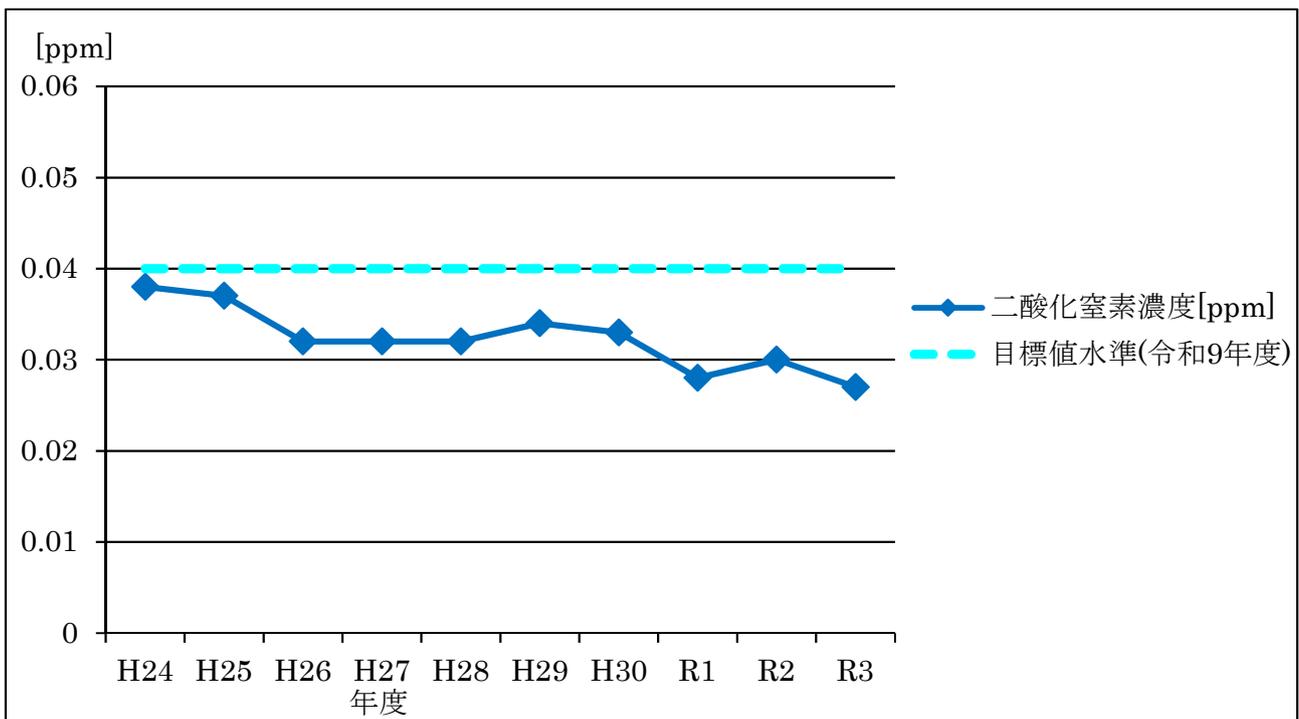
【指標の内容】	「人の健康を保護するうえで維持されることが望ましい国の環境基準を基に設定したもので、環境基準同様に、日平均値を一年分並べて低いほうから98%に相当する値」を表示します。
---------	--

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
二酸化窒素濃度[ppm]	0.034	0.033	0.028	0.030	0.027	0.04

【本年度の評価】 良好化している

【評価の理由】 大和市の交通量に大きな変化は見られないが、低公害車の普及が影響していると考えられる

【目標の確認のための取組】 常時監視測定局の大和市役所における二酸化窒素濃度年間98%値(環境基準)の経年変化を測定



《令和3年度の取組事例》

- ・コミュニティバス「のろっと」及び「やまとん GO」、西鶴間・上草柳地域の協働事業「のりあい」の運行により、交通利便性の向上が図られた。
- ・144mの歩行者空間を整備した。【福田相模原線 144m】
- ・駐輪場シェアサービス「みんなちゅう」登録台数は147台あった。
- ・11月に上草柳トラックステーションにてアイドリングストップのチラシとカイロを休憩所窓口に設置し、啓発活動を実施した。また、開発協議会で29件の駐車場管理者に対し、アイドリングストップの周知について指導した。
- ・簡易測定法による窒素酸化物濃度の測定を年2回市内32ヵ所で実施した。

生活環境

2. 「水」

目 標：きれいな川のあるまち

数値目標：BOD(生物化学的酸素要求量)

境川 3.0mg/ℓ 以下・引地川 2.0mg/ℓ 以下

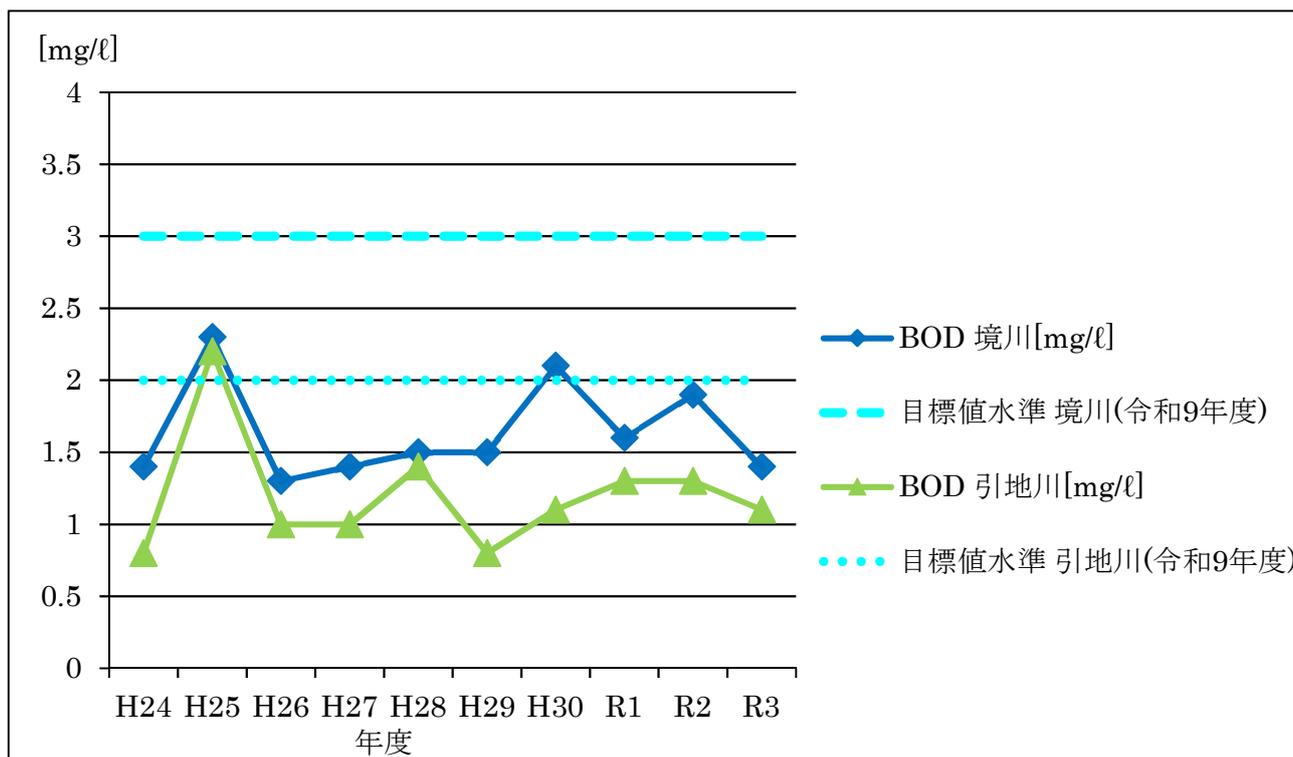
【指標の内容】	「生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい国の環境基準を基に設定したもので、市が独自に行う水質調査の平均値による値」を表示します。
---------	---

項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	目標値
境川[mg/l]	1.5	2.1	1.6	1.9	1.4	3.0
引地川[mg/l]	0.8	1.1	1.3	1.3	1.1	2.0

【本年度の評価】 環境基準を達成できている

【評価の理由】 高い下水道普及率や合併処理浄化槽転換補助により、環境基準を達成する水質を維持できていると考えられる

【目標の確認のための取組】 河川の水質測定



《令和 3 年度の取組事例》

- ・水質汚濁防止法及び神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づき、13 事業所についてのべ 19 件の排水の水質検査を実施し、水質基準違反のあった事業所のべ 2 件に対し、指導を行った。
- ・事業場排水の水質検査を 131 件実施し、違反があった 22 件に対し指導を行った。
- ・下水道出前授業(18 校)及び、教材等を配布し各学校の教員による授業実施(2 校)により生活排水や下水道の役割についての意識啓発を行った。また、下水道ポスター展を開催し、14 校からのべ 1,307 点の作品の募集があった。
- ・側溝や河川の清掃を実施した。(側溝 2,173m、河川 2,311m)
- ・河川水質調査(境川 3 地点、引地川 2 地点)を実施した。

3. 「音」

目 標： 静けさを感じるまち

数値目標： 市内全調査地点で環境基準をクリア

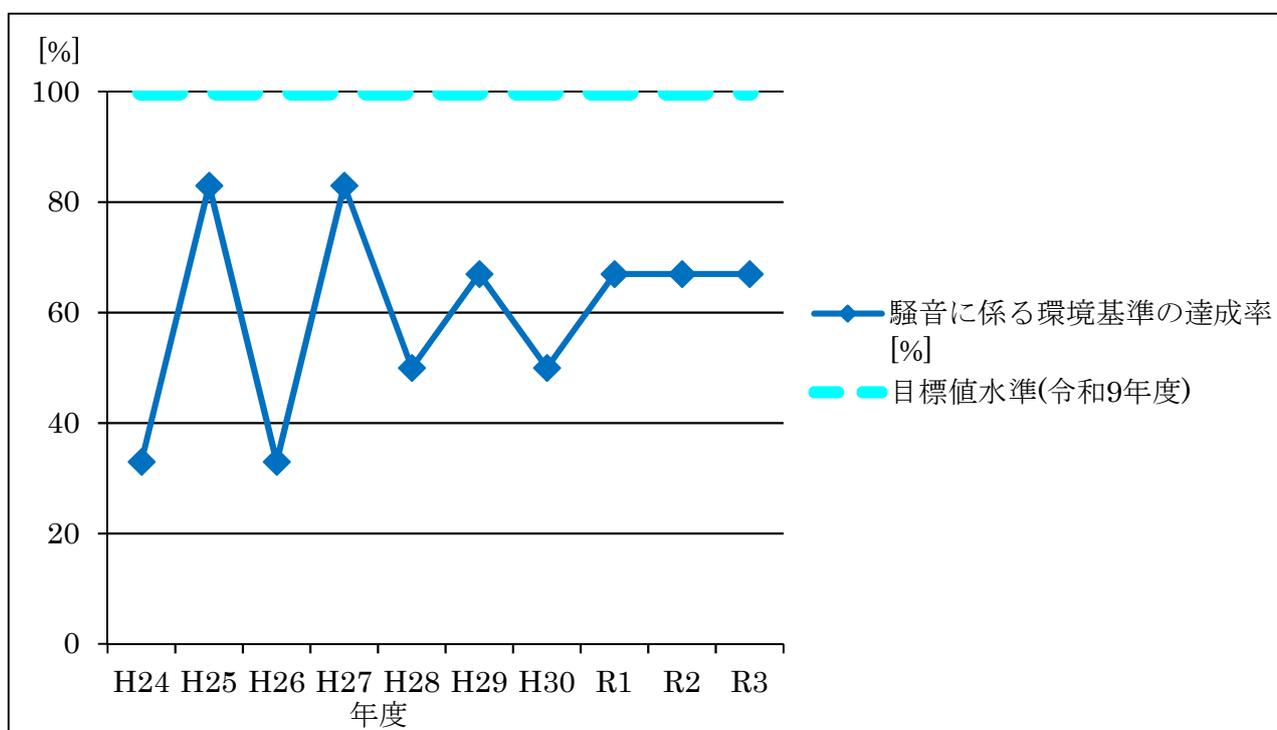
【指標の内容】	市内全道路騒音調査地点における、騒音に係る環境基準の達成率を表示します。
---------	--------------------------------------

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
騒音に係る環境基準の達成率[%]	67	50	67	67	67	100

【本年度の評価】 例年と同程度の状態である

【評価の理由】 主要な幹線道路に低騒音舗装(排水性舗装等)を整備するなどの対策は行っているが、状況の大きな変化にはつながっていないと考えられる

【目標の確認のための取組】 幹線交通を担う道路における騒音測定



《令和3年度の取組事例》

- ・神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づく許可申請時において、事業者に対し、騒音・振動防止対策を指導した。また、工場・事業所から発生した騒音・振動苦情2件について事業者に指導を行った。
- ・屋外作業に伴う騒音・振動苦情19件に対して事業者に指導を行った。
- ・建設作業に伴う騒音・振動苦情22件について実態を調査し、事業者を指導した。
- ・苦情のあった音響機器(カラオケ)を使用した営業店1件について事業者を指導した。
- ・広報やホームページで生活騒音防止に関する意識啓発活動を行った。
- ・主要な幹線道路沿い6地点で道路交通騒音の測定を実施した。
- ・144mの低騒音舗装(排水性舗装)を整備した。

生活環境

4. 「美化」

目 標： 散乱ごみのないきれいなまち

数値目標： 「散乱ごみの少ないきれいなまち」だと思ふ市民割合 50%

【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「散乱ごみの少ないきれいなまち」だと思ふ市民・事業者の割合を表示します。
---------	--

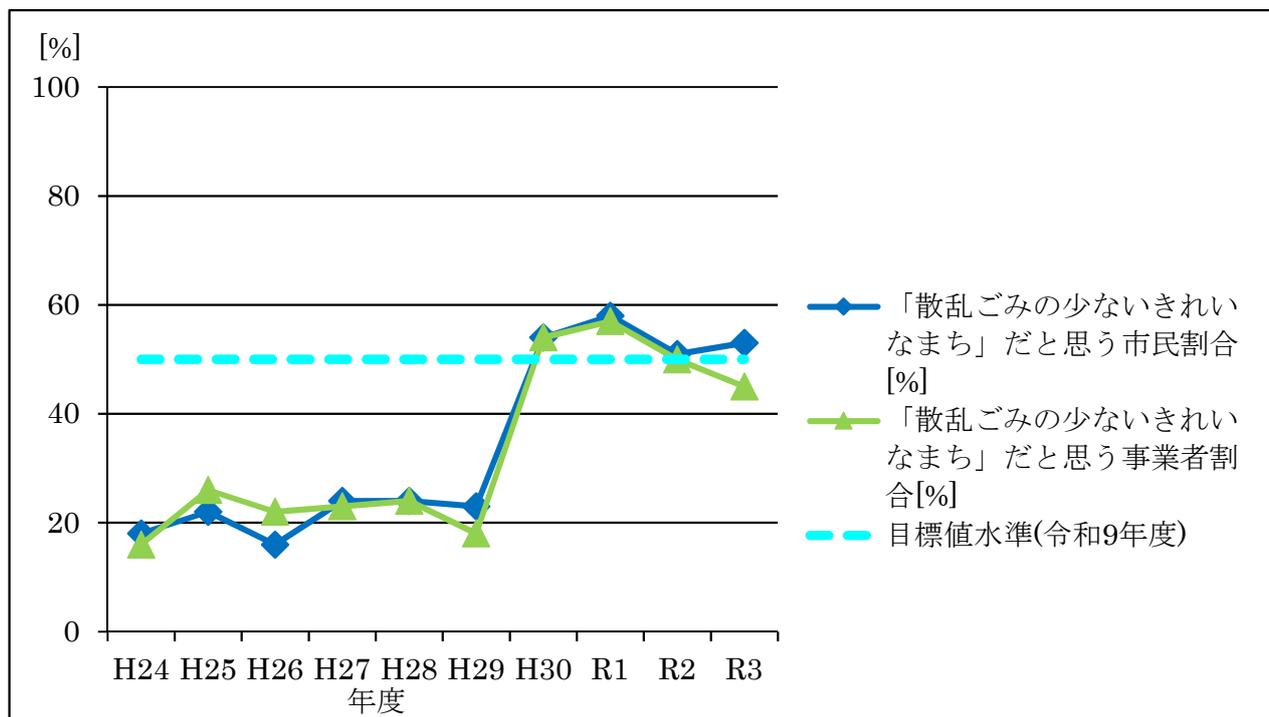
項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
大和市の「美化」に関する環境が良いと思ふ市民の割合[%]	(23)	54	58	51	53	50
大和市の「美化」に関する環境が良いと思ふ事業者の割合[%]	(18)	54	57	50	45	50

※アンケートの回答は H29 年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30 年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29 年度までの数値は参考値として()でくります。

【本年度の評価】 改善しているとは言えない状態である

【評価の理由】 令和2年度に続いて令和3年度においても、新型コロナウイルス感染拡大防止により、年間クリーンキャンペーンが中止になった中、事業者からの評価が下がったため

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



《令和3年度の取組事例》

- ・不法投棄防止の啓発看板等の作成やパトロールを行うとともに、ボランティア袋を市民に配布し散乱ごみや不法投棄防止のための意識啓発を行った。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、清掃の日、例月まち並み清掃、美化推進月間クリーンキャンペーン及び環境ポスターの優秀な作品の表彰を中止した。

自然環境

5. 「緑」

目 標 : 緑豊かなまち

数値目標 : 保全緑地契約面積等 26.2ha

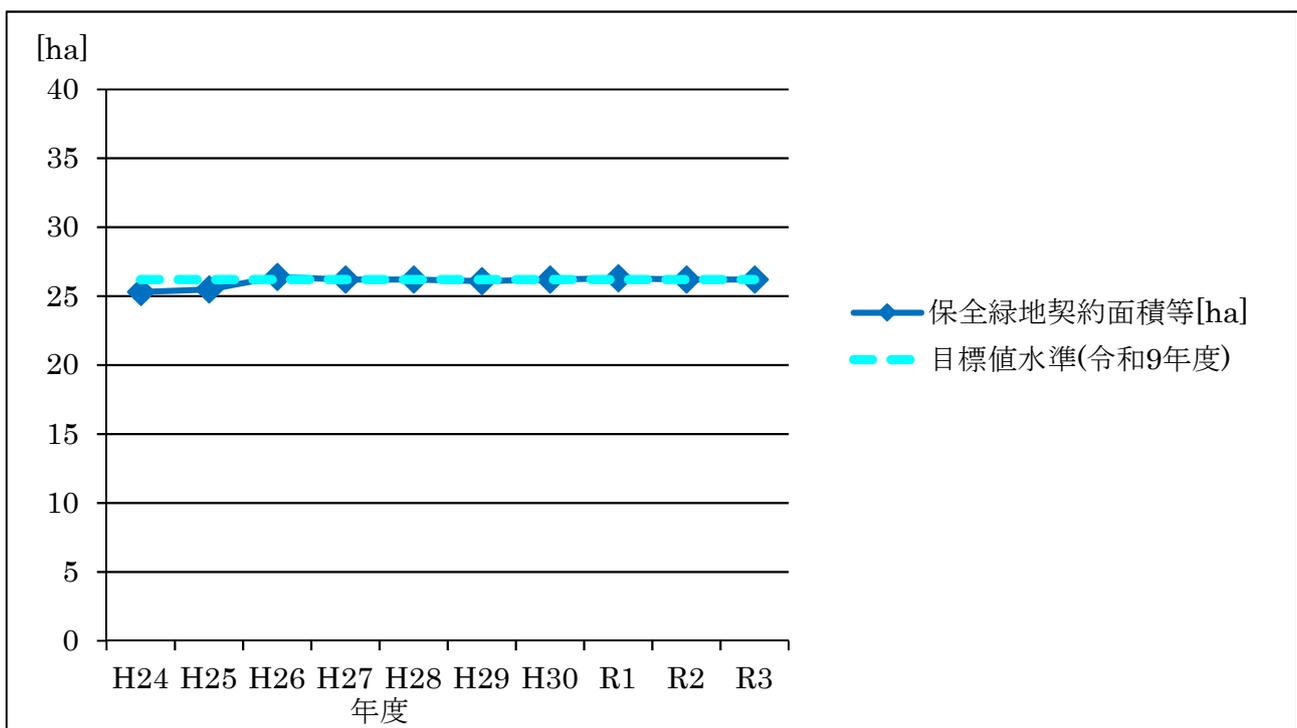
【指標の内容】 今ある緑を守り育てるため、「保全緑地契約面積等」の値を表示します。

項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	目標値
保全緑地契約面積等[ha]	26.1	26.2	26.3	26.2	26.2	26.2

【本年度の評価】 現状維持できている

【評価の理由】 緑の拠点となる保全緑地の契約を継続し、保全できているため

【目標の確認のための取組】 保全緑地契約面積等を把握



《令和 3 年度の取組事例》

- ・緑地所有者と賃貸借契約を継続し、山林の保全に努めた。
- ・意欲的な農業者に対し、積極的に農地の貸し借りを推進し、農地の集約化等を図ることで良好な農業景観を保全した。
- ・新たな公園愛護会が設置できるように誘導及び各愛護会を継続して支援できた。(団体数:121 団体)
- ・住宅地における接道部緑化(生垣等設置)に対して、費用助成及び現物支給を各 1 件ずつ行い、目標とおり 2 件の助成を行った。
- ・市内の保全緑地における緑化ボランティアのトコロジストの活動支援の一環として、トコロジスト養成講座を開催し、11 名の参加者がいた。

自然環境

6. 「生物」

目 標：多様な生物とのふれあいのあるまち

数値目標：「身近に多くの種類の動植物とのふれあいのあるまち」だと思ふ市民割合 50%

【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「身近に多くの種類の動植物とのふれあいのあるまち」だと思ふ市民・事業者の割合を表示します。
---------	---

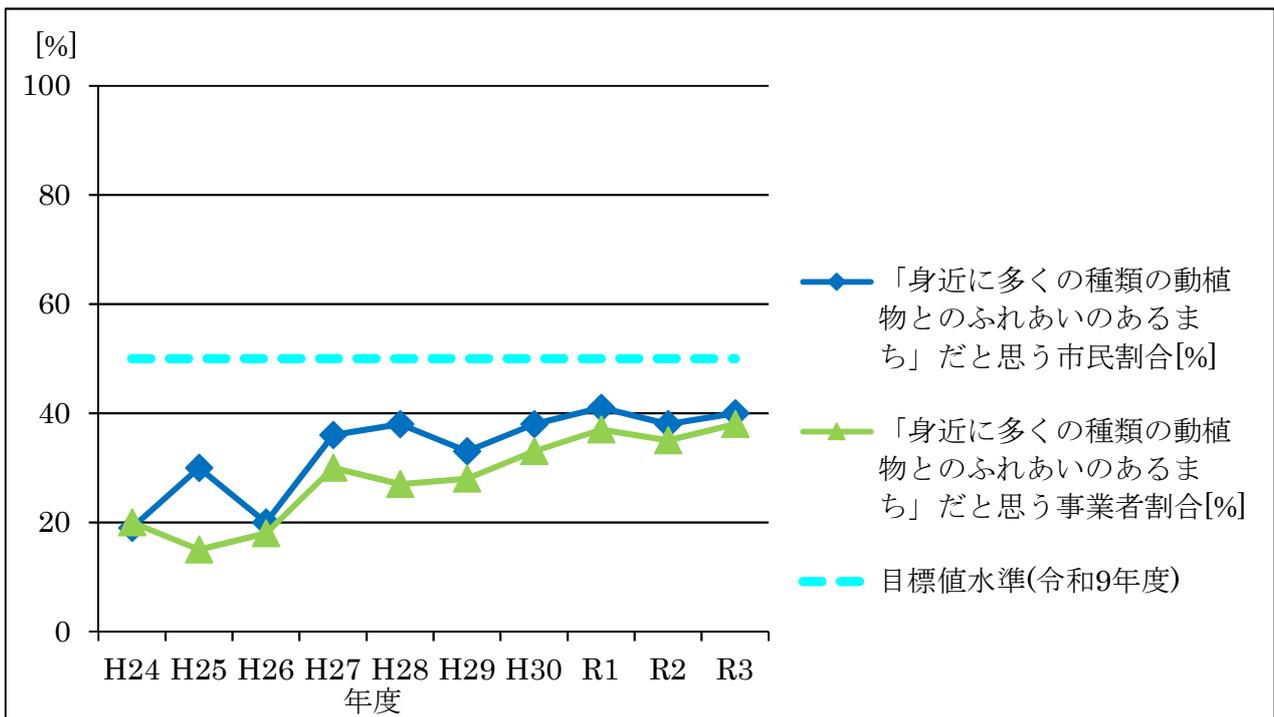
項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
大和市の「生物」に関する環境が良いと思ふ市民の割合[%]	(33)	38	41	38	40	50
大和市の「生物」に関する環境が良いと思ふ事業者の割合[%]	(28)	33	37	35	38	50

※アンケートの回答はH29年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29年度までの数値は参考値として()でくります。

【本年度の評価】 市民割合、事業者割合ともに目標を達成しなかったが、わずかに増加した

【評価の理由】 緑地等の保存に努めたことにより、現状を維持することが出来たものの、市民や事業者の評価を大きく改善することができなかったため

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



自然環境

6. 「生物」

目 標：多様な生物とのふれあいのあるまち

数値目標：市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること

【指標の内容】	自然度を表すことのできる生物としてミンミンゼミの生息がぬけがら採取から確認できたかどうかを表示します。
---------	---

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
市内でミンミンゼミの生息が継続的に確認されていること (ミンミンゼミが全体に占める割合%)	○(11.3)	○(13.2)	○(13.5)	○(-)	○(-)	生息を確認

【本年度の評価】 例年同様にミンミンゼミが確認されている

【評価の理由】 市職員がミンミンゼミの生息を確認している

ミンミンゼミの全体に占める割合については、新型コロナウイルス感染症の影響によるセミのぬけがら調査の中止のため、不明である

【目標の確認のための取組】 市民環境調査(セミのぬけがら調査)による調査

※令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により調査は中止しました。
ミンミンゼミの生息確認は市職員が行いました。

《令和3年度の取組事例》

- ・市内に生息する野生動植物を調査する市民環境調査として、7～9月にセミのぬけがら調査を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止とした。
ツバメ情報調査は「やまと みどりの学校プログラム」の一環として実施した。
- ・自然ハンドブックの「トンボ」を発行し、野生動植物保護に関する普及啓発を図った。
- ・大規模な緑地の保全を、賃貸借契約や土地の買取り等で維持し、保全管理を適切に行い、野生動植物の生息地の保全を図っている。

都市環境

7. 「景観」

目 標：魅力ある街並み

数値目標：「魅力ある街並みを持っているまち」だと思ふ市民割合 40%

【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「魅力ある街並みを持っているまち」だと思ふ市民・事業者の割合を表示します。
---------	---

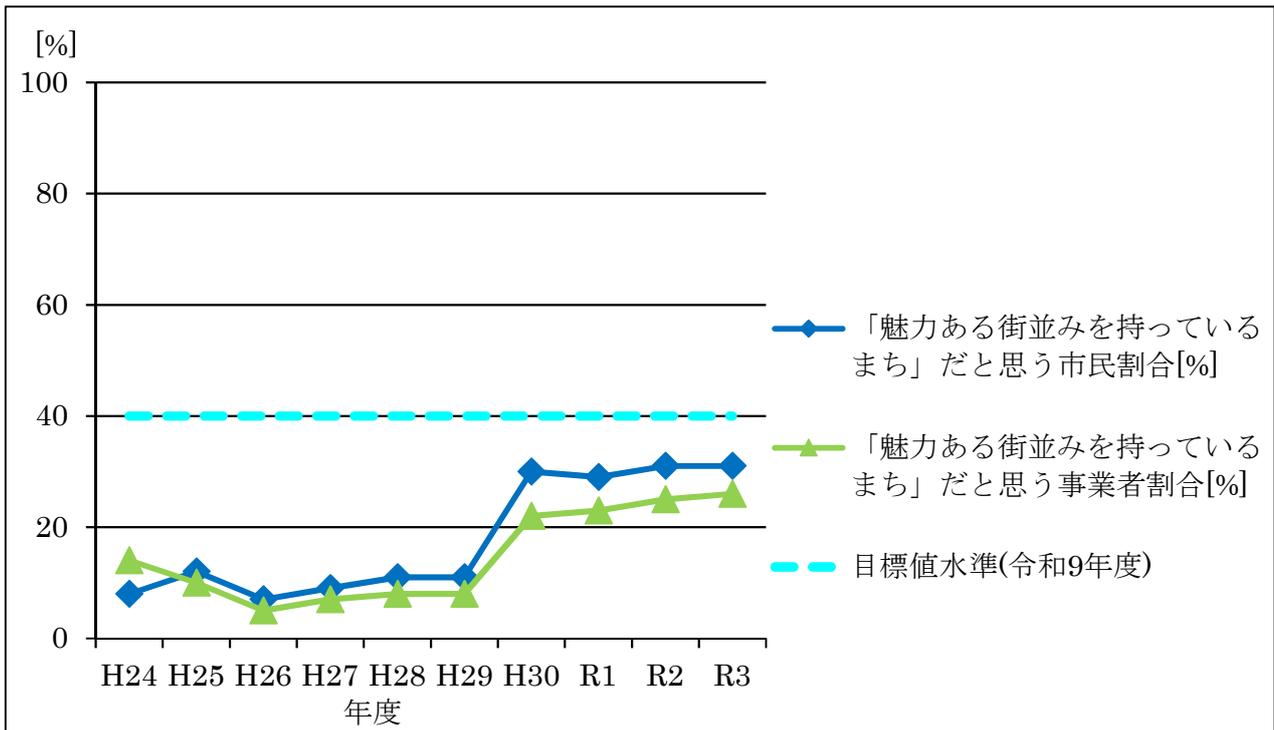
項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
大和市の「景観」に関する環境が良いと思ふ市民の割合[%]	(11)	30	29	31	31	40
大和市の「景観」に関する環境が良いと思ふ事業者の割合[%]	(8)	22	23	25	26	40

※アンケートの回答は H29 年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30 年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29 年度までの数値は参考値として()でくります。

【本年度の評価】 現状維持に留まっている

【評価の理由】 「景観」に関する環境が良いと思ふ割合が、過去数年間微増に留まっているため

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



《令和3年度の取組事例》

- ・景観づくりに関する普及啓発を進めるため、街づくり学校、及び街づくり賞の事例募集【テーマ「わたしの居場所」募集期間令和4年2月1日～令和4年9月30日】を実施した。
- ・144mの歩行者空間を整備し、ゆとりある歩道の確保や、歩道と車道の区画部の改善、誘導用床材の使用やわかりやすいサインの設置と街並みとの調和を図った。【福田相模原線 144m】

都市環境

8. 「安全」

目 標 : 安心して生活できるまち

数値目標 : 環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数 ゼロ

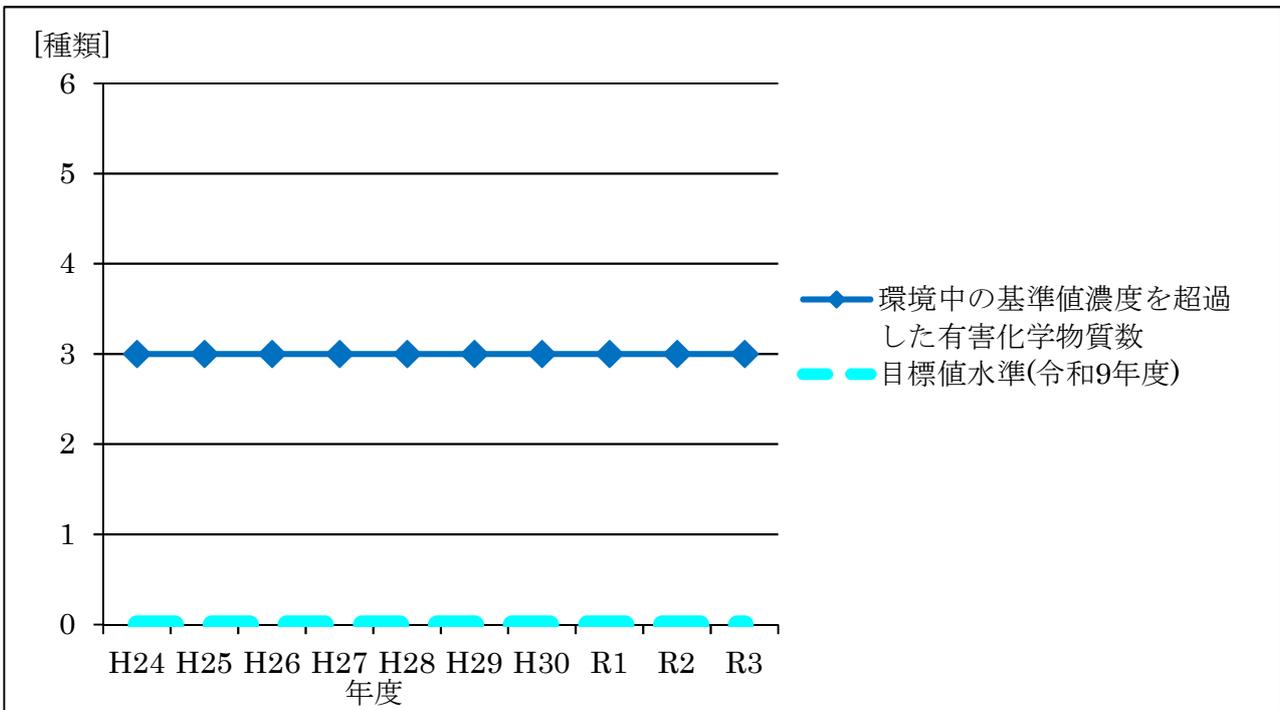
【指標の内容】	人の健康を守るために望ましい環境基準等を定められた有害物質を対象に市の 大気、水質、地下水についての調査で環境基準等を超過した物質の数を表示しま す。
---------	---

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
環境中の基準濃度を超過した有害化学物質数[種類]	3	3	3	3	3	0

【本年度の評価】 目標を達成できてはいない

【評価の理由】 有害化学物質数が昨年度と同じだったため

【目標の確認のための取組】 各環境中の基準濃度と超過した有害化学物質数の測定



《令和3年度の取組事例》

- ・0.68haの雨水整備を行った。
- ・耐震化の必要性の周知を行うとともに、木造建築物の耐震診断、耐震改修の補助により、住宅の耐震化を進めた。
- ・防災マップを更新し、市民に提供したほか、コロナ対策を踏まえた避難所等の運営に関する講義をはじめ、各自主防災会長へ資料を配付するなど防災に関する意識啓発を行った。
- ・台風や集中豪雨時に、やまとPSメール、やまとSOSアプリで情報を提供した。
- ・神奈川県生活環境の保全等に関する条例に基づき、苦情のあった焼却炉の設置事業所2件に立ち入り調査を行った。

都市環境

9. 「産業」

目 標：農・工・商の調和するまち

数値目標：環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合 50%

【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「環境に配慮した事業活動を行っている」と回答した事業者の割合を表示します。
---------	---

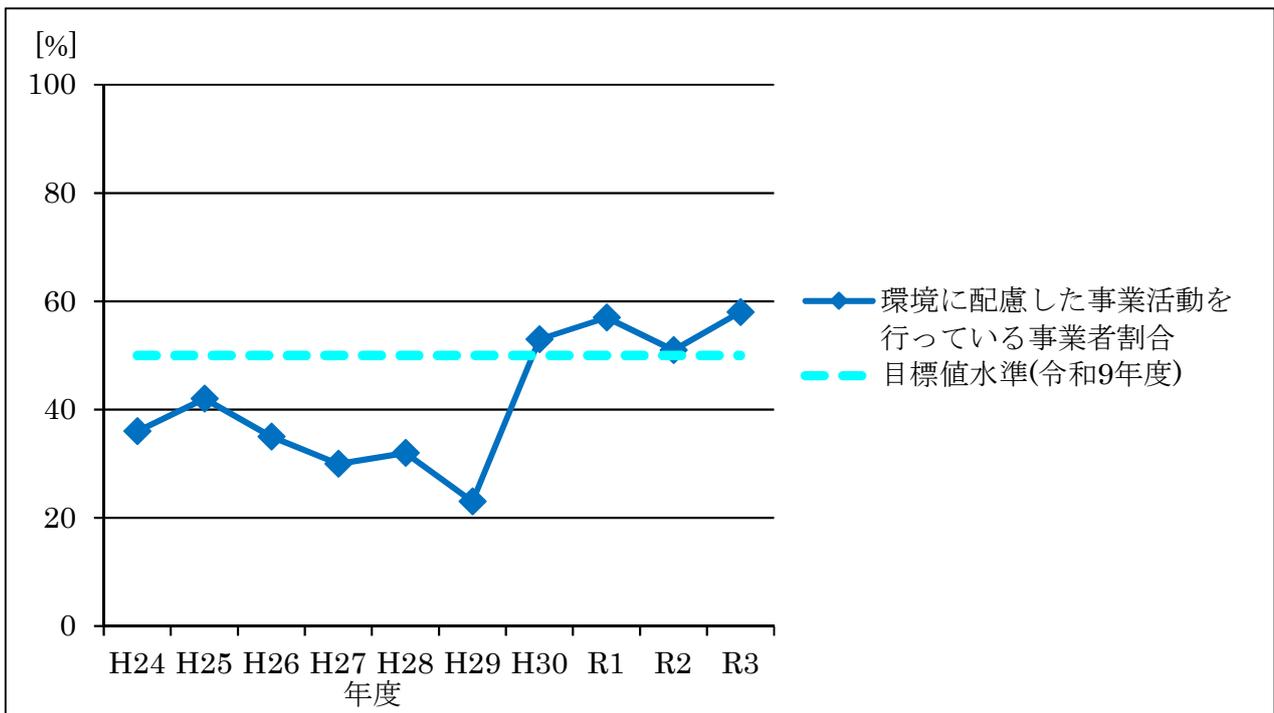
項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
環境に配慮した事業活動を行っている事業者割合[%]	(23)	53	57	51	58	50

※アンケートの回答は H29 年度まで「大切であり実際に取り組んでいる、大切とは思いますが取り組みはしていない、大切とは思わない」の3段階で「大切であり実際に取り組んでいる」の割合。H30 年度からは「実施している、やや実施している、あまり実施していない、まったく実施していない」の4段階とし、「実施している、やや実施している」の割合。このため、H29 年度までの数値は参考値として()でくります。

【本年度の評価】 令和元年度と同程度まで改善した

【評価の理由】 令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大対策を行うことで、環境に配慮した事業活動を再開した可能性が考えられる
また、環境に対する意識の高まりを受けて、環境に配慮した事業活動を行う事業者が増えた可能性も考えられる

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



《令和3年度の取組事例》

- ・土づくり等を通じて化学肥料や農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業を推進した。
- ・農業経営改善を進める認定農業者や、認定を受けようとする農業者などに対して、経営の相談、各種研修会の周知等を行い、農業者の育成に努めた。(認定農業者の認定件数10人)
- ・グリーン購入などのパンフレット配架等により、情報提供を行った。

都市環境

10. 「基地」

目 標 : 航空機騒音のないまち

数値目標 : 航空機騒音に係る環境基準の達成率 100%

【指標の内容】 市内全域での「航空機騒音に係る環境基準」の達成率を表示します。

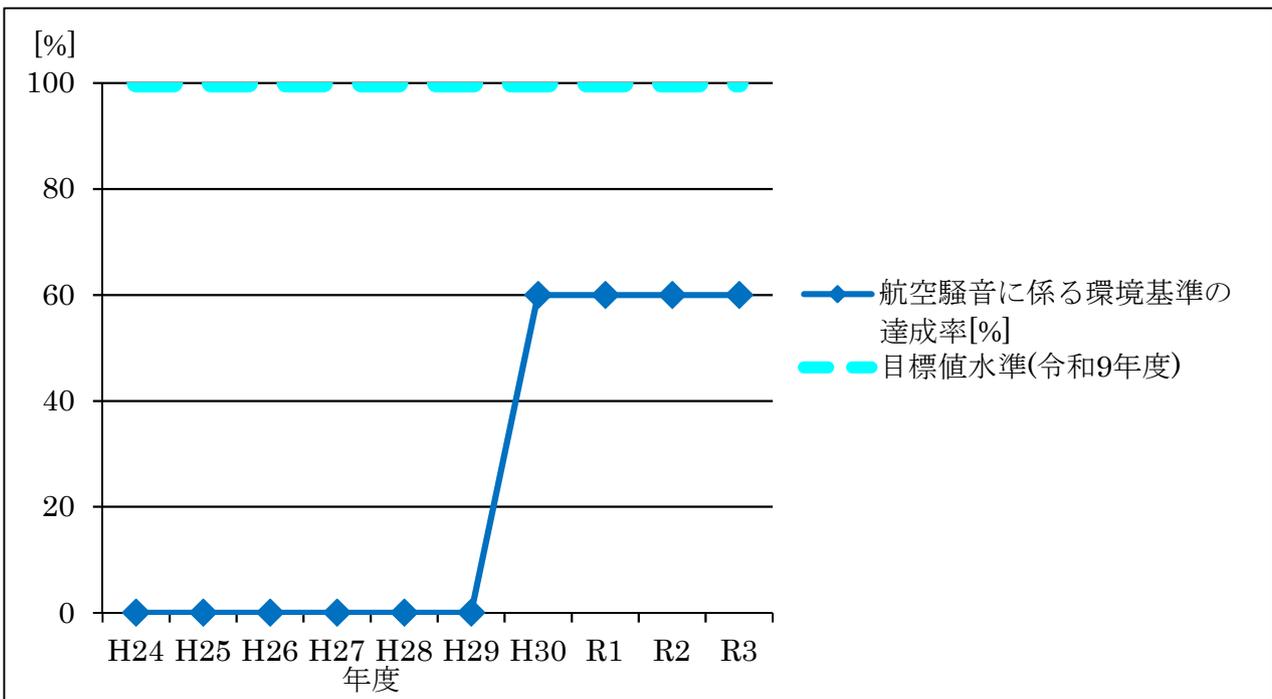
項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
航空機騒音に係る環境基準の達成率[%]	0	60	60	60	60	100

【本年度の評価】 目標は未達成のため、引き続き取り組む必要がある

【評価の理由】 航空機騒音に係る環境基準が達成できていないため

また、大和市 環境に関する市民アンケート結果においても、大和市が「航空機騒音のないまち」だと思いますか、という質問に対し、「あまり思わない」、「全く思わない」が合わせて8割を超えているため

【目標の確認のための取組】 航空機騒音の測定



10. 「基地」

目 標 : 航空機騒音のないまち

数値目標 : 航空機騒音を遡減させるよう取り組む

【指標の内容】	航空機騒音を遡減させるよう取り組んだかどうかを表示します。
---------	-------------------------------

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
航空機騒音を遡減させるよう取り組む	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる	取り組んでいる

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 例年同様に航空機騒音を遡減させるよう取り組んでいる

【目標の確認のための取組】 航空機騒音の軽減に向けたはたらきかけ

《令和3年度の取組事例》

- ・大和市、大和市基地対策協議会、厚木基地騒音対策協議会、神奈川県基地関係県市連絡協議会による要請活動を行うにあたり、現状を踏まえ要請内容を検討した。
- ・県と市で設置している騒音計による騒音測定を継続実施した。
- ・基地周辺(2か所)で地下水調査を実施したところ、環境基準を満たしていた。
- ・基地周辺(3か所)で大気中の窒素酸化物の簡易測定を実施し、状況の把握をした。

都市環境

11. 「都市空間」

目 標：都市空間のゆとりのあるまち

数値目標：一人当たりの都市公園等面積 6.8 m²以上

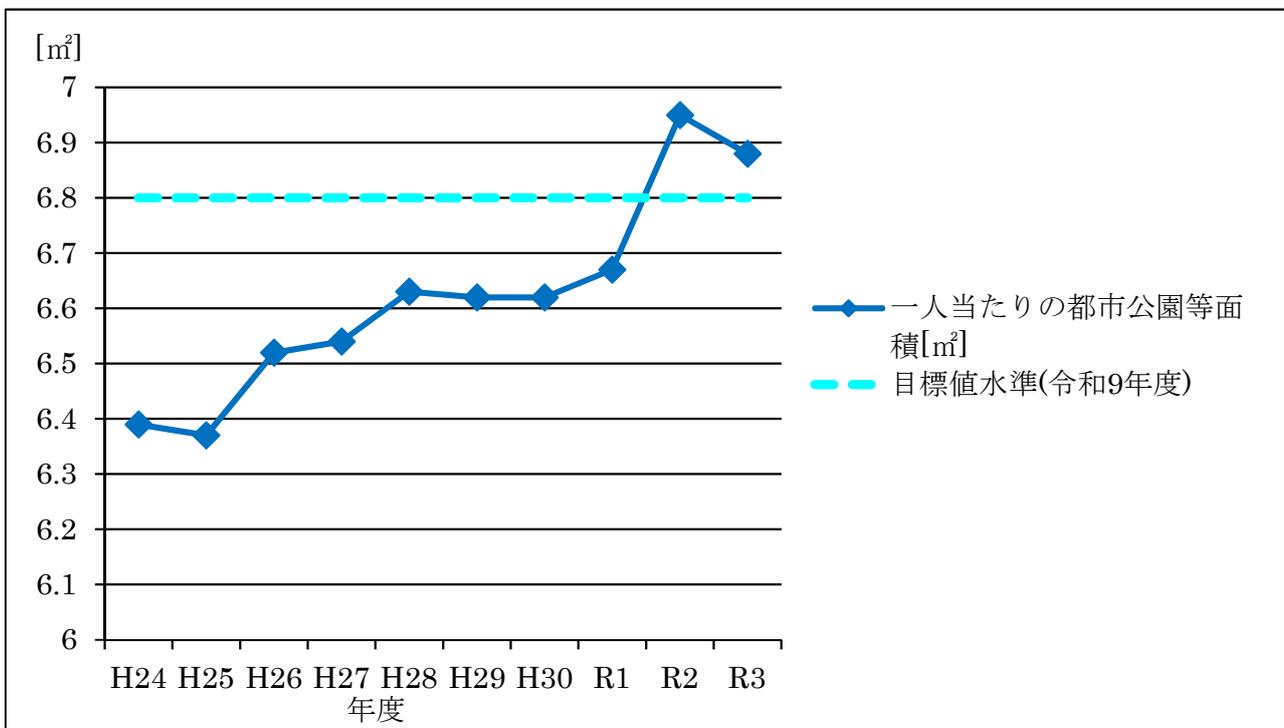
【指標の内容】	一人当たりの都市公園面積を現状程度に維持するために一人当たりの都市公園面積を表示します。
---------	--

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
一人当たりの都市公園等面積[m ²]	6.62	6.62	6.67	6.95	6.88	6.8

【本年度の評価】 一人当たりの都市公園等面積は減少したが、目標は達成できている

【評価の理由】 前年度に比べ都市公園の面積は75 m²増加したが、人口増加に伴い一人当たりの都市公園等面積が減少したため

【目標の確認のための取組】 公園等の整備



《令和3年度の取組事例》

- ・生活道路等において、速度抑制等の交通安全対策を81箇所実施した。
- ・144mの歩行者空間を整備した。【福田相模原線 144m】
- ・各種交通安全教室や街頭キャンペーン等により交通安全の啓発活動を実施した。
- ・令和2年度から継続してやまと公園の大規模改修事業を行った。
- ・引地台公園の改修工事を行い、北側駐車場をエントランスとして整備した。
- ・地域住民の良好な生活環境を確保するため、開発等の事業に対する指導を行った。
- ・大規模土地利用の転換に関して、地域の環境を阻害しないよう、土地利用誘導を推進した。(届出件数:4件)

地球環境

12. 「地球環境」

目標:地球市民としての自覚を持って行動するまち

全体の数値目標:温室効果ガス排出量 40.0%削減(2013年度比)

【指標の内容】	地球温暖化を抑制するため「温室効果ガス排出量」を指標とし、2013年度を基準とした削減率を表示します。
---------	---

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
温室効果ガス排出量削減[%]	15.2	19.1	22.9	23.2	-	40.0

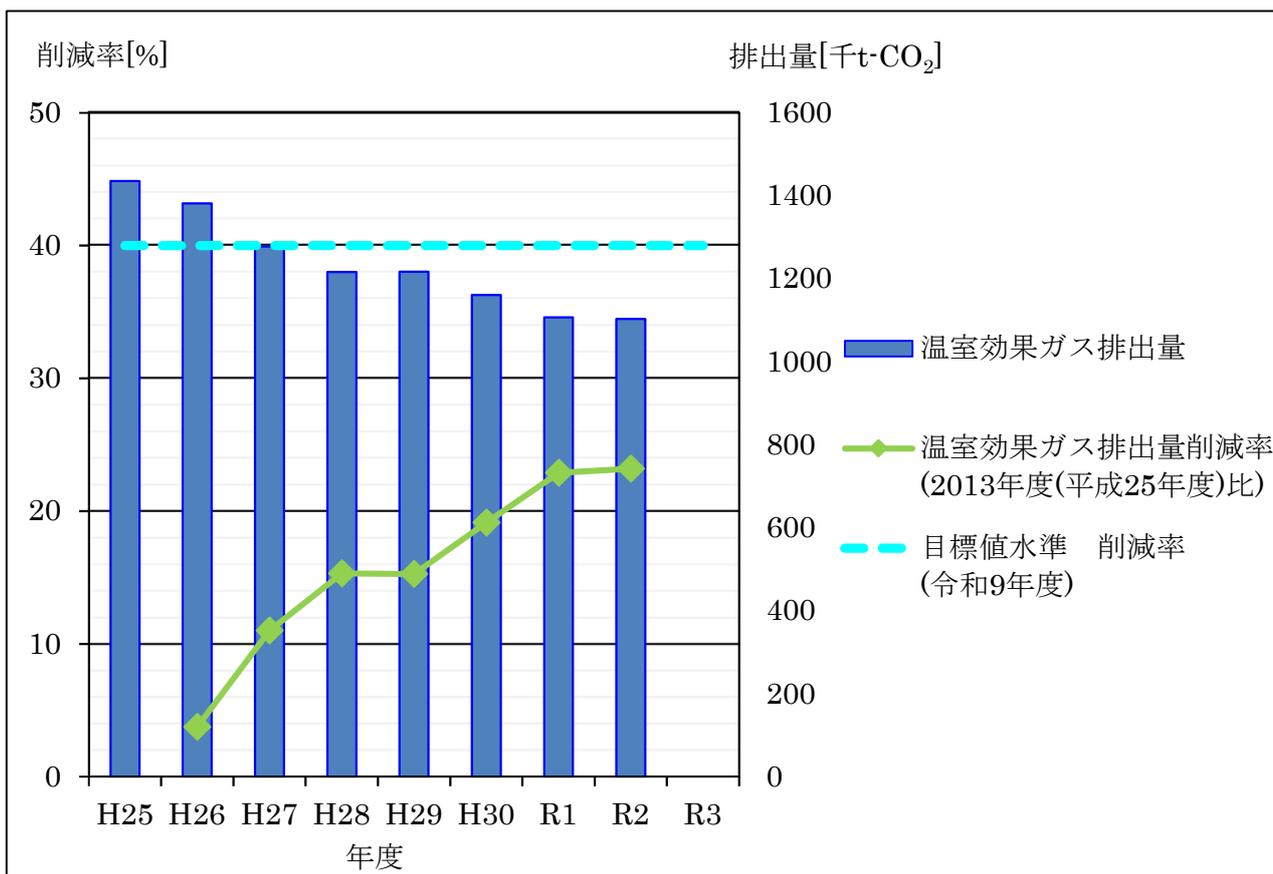
【本年度の評価】 温室効果ガス排出量削減率が減少(温室効果ガス排出量が増加)した

【評価の理由】 コロナ禍により在宅ワークが増えるなどの生活様式の変化が起き、産業部門・業務その他部門の排出量は減少した一方、電気等の使用量が増加した家庭部門及び、人口増加の影響を受ける廃棄物分野の排出量は増加したため

【目標の確認のための取組】 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)による推計

※温室効果ガス排出量の推計は、統計資料などを用いて作業する必要があることから、把握できる排出量の情報は2年遅れとなります。

※目標値は令和4年4月に「大和市環境基本計画」を部分修正した際、19.5%から40.0%に変更しました。



《令和3年度の取組事例》

- ・ホームページ等で、大和市環境基本計画及び大和市環境配慮指針の普及・啓発を行った。
- ・熱中症・感染症予防に向けて多くの手段を通じて普及・啓発を行った。
- ・感染症について、市民に正しい知識を普及啓発することで、感染症へかかるリスク、重症化するリスクの軽減をはかった。

循環

13. 「水循環」

目 標 : 水との親しみのあるまち

数値目標 : 雨水貯留槽購入費補助申請累計件数 650 件

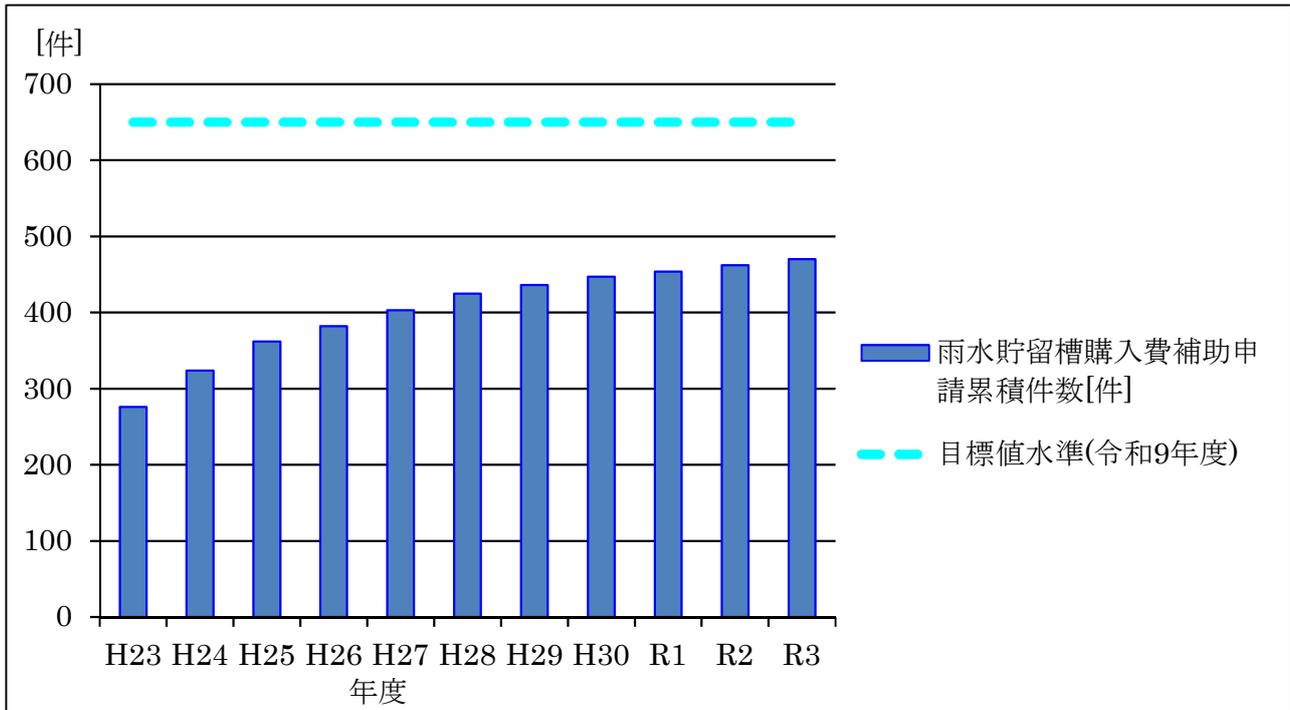
【指標の内容】	雨水の有効活用を示す指標として、「雨水貯留槽購入費申請累計件数」を表示します。
----------------	---

項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	目標値
雨水貯留槽購入費補助申請累計件数[件]	436	447	454	462	470	650

【本年度の評価】 年当たりの申請件数が計画に対して少ない

【評価の理由】 令和 9 年度累計目標達成には毎年 30 件程度の申請が必要となるため

【目標の確認のための取組】 雨水貯留槽購入費用補助申請件数(累計)



《令和 3 年度の取組事例》

- ・雨水貯留槽購入費補助金交付制度により、補助金を交付した。(8 件)
- ・生活道路整備工事で 218m の透水性舗装を実施した。
- ・立ち入りした 5 事業所について、神奈川県生活環境の保全等に関する条例、水質汚濁防止法、土壌汚染対策法に基づき、地下水汚染の未然防止等について指導した。
- ・市内 12 地点で地下水水質調査を実施したところ、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が 1 地点、六価クロムが 1 地点、計 2 地点で環境基準を超過していた。

循環

14. 「資源」

目 標：物質循環のなされているまち

数値目標：資源化率 32.2%以上

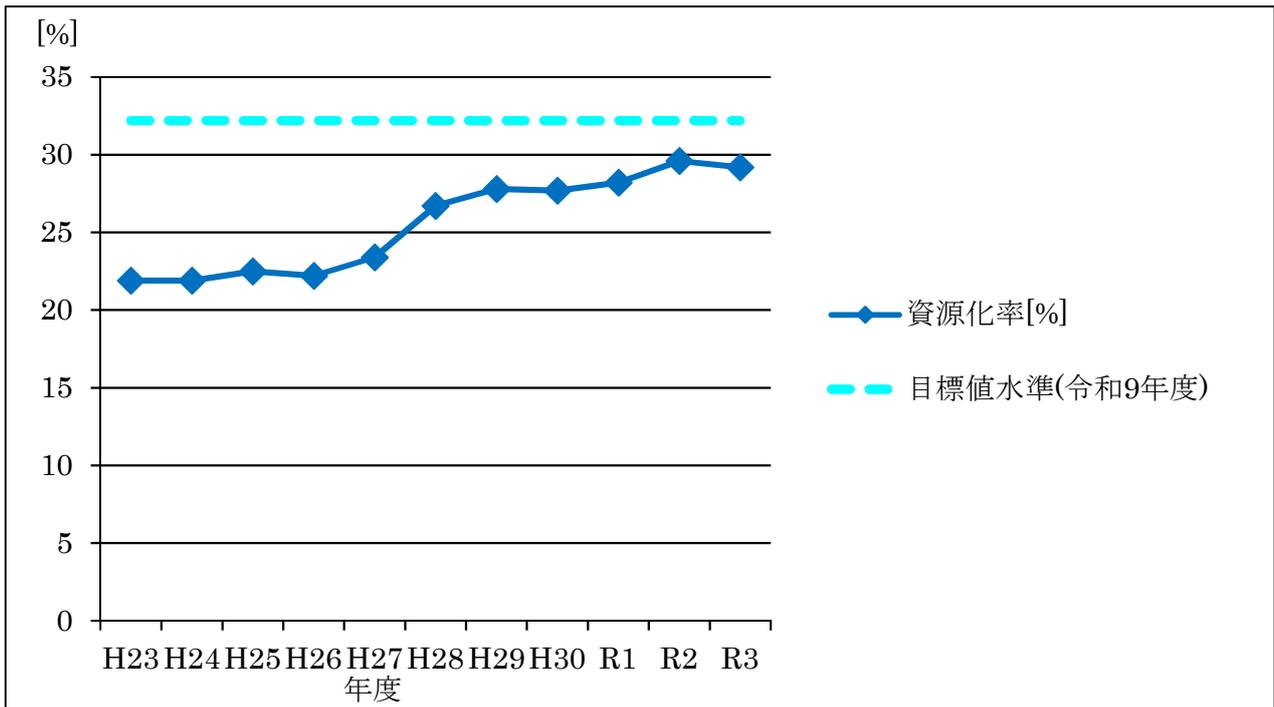
【指標の内容】	ごみ・資源を含めた総排出量に占める、資源回収からの資源化量・焼却灰からの資源化量・燃やせないごみからの資源化量を含めた、総資源化量の割合として計算された資源化率を表示します。
---------	---

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
資源化率[%]	27.8	27.7	28.2	29.6	29.2	32.2

【本年度の評価】 目標は未達成となったが、資源化の取組みは概ね進んでいる

【評価の理由】 デジタル化・ペーパーレス化と、紙製容器包装・缶・ペットボトル・容器包装プラ等の各種容器包装の軽量化に伴い、近年は全国的に資源の排出量が減少傾向にあり、それが資源化率の計算にも反映されているので、資源化自体が滞っているものではないため

【目標の確認のための取組】 ごみの排出量及び資源化量の集計



循環

14. 「資源」

目 標：物質循環のなされているまち

数値目標：市民一人一日当たりの家庭系ごみ排出量 438g 未満

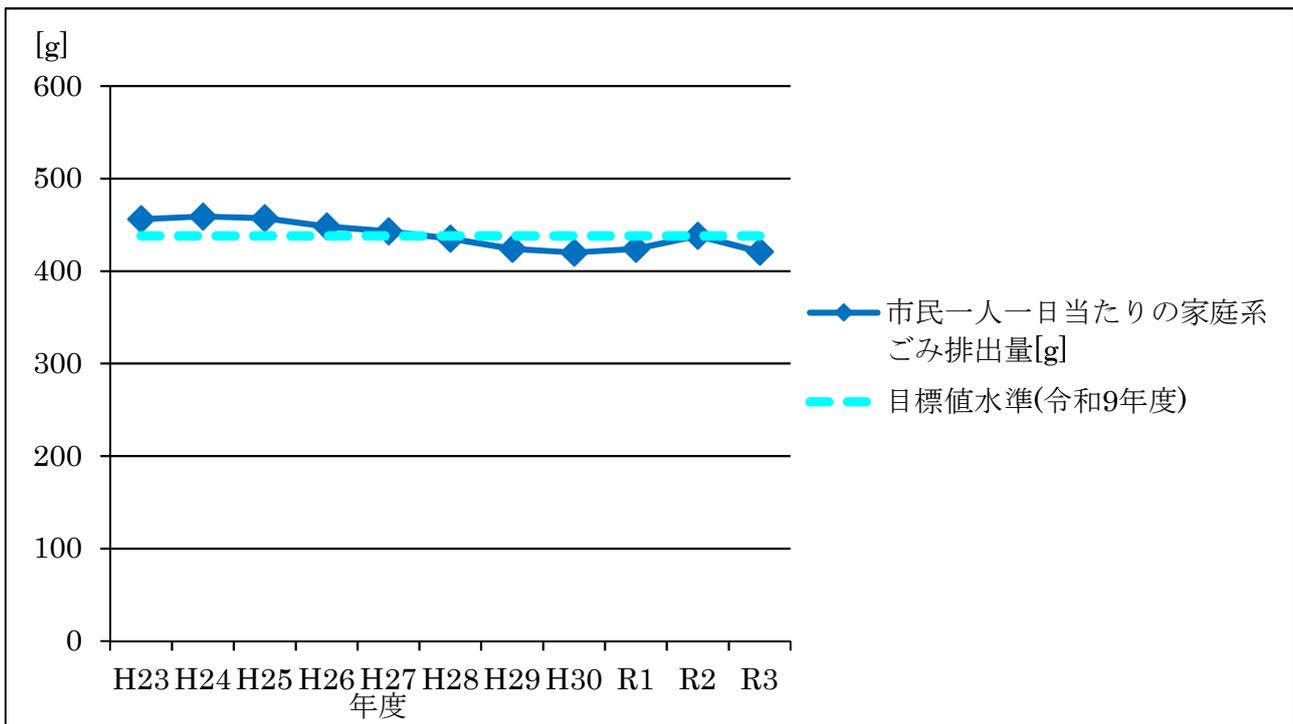
【指標の内容】	ごみ減量化のため市民一人一日当たりの家庭系ごみの排出量を表示します。
---------	------------------------------------

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
市民一人一日あたりごみ排出量[g]	424	420	424	438	421	438

【本年度の評価】 目標を達成した

【評価の理由】 ごみの減量に市民のご協力をいただけたため

【目標の確認のための取組】 ごみの排出量及び資源化量の集計



《令和3年度の取組事例》

- ・「家庭の資源とごみの分け方・出し方」パンフレット、ごみカレンダーアプリ等により、ごみ減量化・資源化の啓発を図った。
- ・大和高座ブロックや県央都市清掃行政連絡協議会などに参加し、広域処理について検討した。
- ・事業系ごみの適正処理についてパトロールを行い、のべ24,812件の事業所の調査を行い、必要に応じて指導を行った。
- ・広報やまと、FM やまと等による市民へのごみの減量化・資源化の啓発活動を行った。

15. 「エネルギー」

目 標 : エネルギーを有効に利用するまち

数値目標 : 住宅用太陽光発電システム補助累積件数 2,500 件

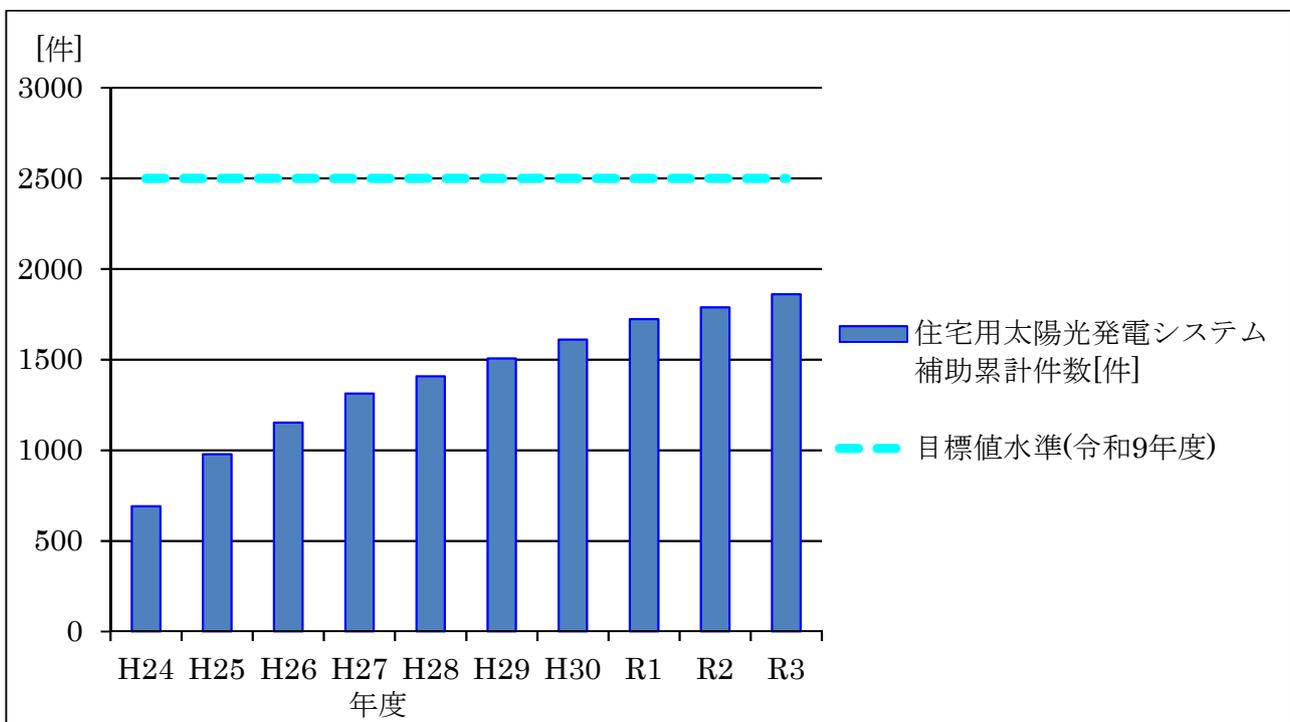
【指標の内容】	再生可能エネルギーの普及拡大を目的とし、平成 21 年度から開始した住宅用太陽光発電システム補助の累積件数を表示します。
---------	--

項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	目標値
住宅用太陽光発電システム補助 累積件数[件]	1,507	1,611	1,723	1,789	1,862	2,500

【本年度の評価】 年当たりの補助件数が目標を達成していない

【評価の理由】 令和 9 年度累計目標達成には毎年 100 件程度の補助が必要となるため

【目標の確認のための取組】 住宅用太陽光発電システム補助件数(累計)



《令和 3 年度の取組事例》

- ・家庭用燃料電池システムの補助制度や環境配慮指針により、省エネルギーの普及を促進した。
- ・太陽光発電等の補助制度により、再生可能エネルギーの普及を促進した。
- ・中央林間コミセン、深見中コミセン、鶴間中、中央林間小に太陽光発電装置を設置した。
- ・ごみ処理施設でのエネルギーの有効利用を図るため、焼却炉の稼働計画を作成し、効率的な発電を実施したところ、当初計画通りの発電を行えた。

環境保全活動

16. 「環境保全活動」

目 標：環境にやさしい市民のまち

数値目標：市内全校のやまと みどりの学校プログラムへの参加

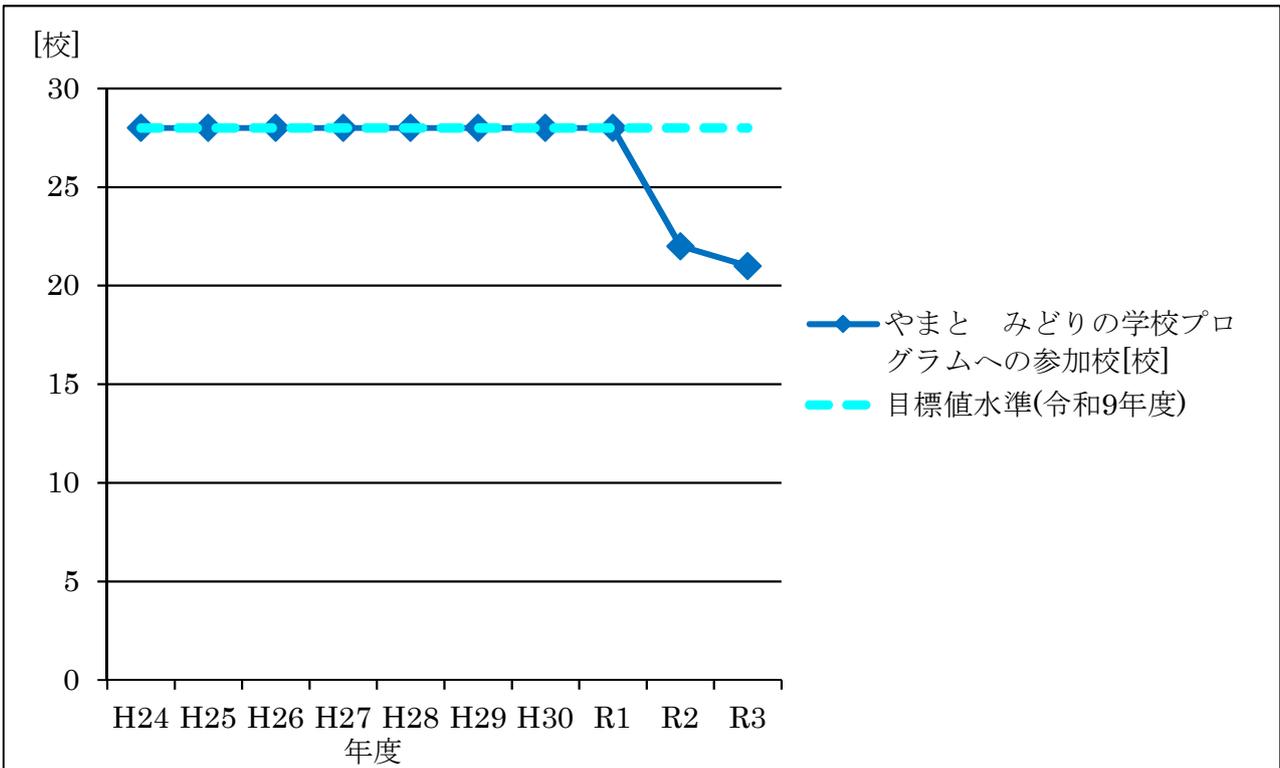
【指標の内容】	環境教育の定着を目的として市内小中学校(全 28 校)が「やまと みどりの学校プログラム」への参加を達成したかどうかを表示します。
---------	---

項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	目標値
市立小中学校全 28 校のやまと みどりの学校プログラムへの参加※(参加校数)	達成(28)	達成(28)	達成(28)	不達成(22)	不達成(21)	達成

【本年度の評価】 目標を達成できなかった

【評価の理由】 令和 2 年度に続き令和 3 年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、みどりの学校プログラムの参加を控えた学校があったため

【目標の確認のための取組】 やまと みどりの学校プログラムへのエントリーの確認



環境保全活動

16. 「環境保全活動」

目 標：環境にやさしい市民のまち

数値目標：「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合 50%

【指標の内容】	市が行う環境に関するアンケート調査で「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民・事業者の割合を表示します。
---------	--

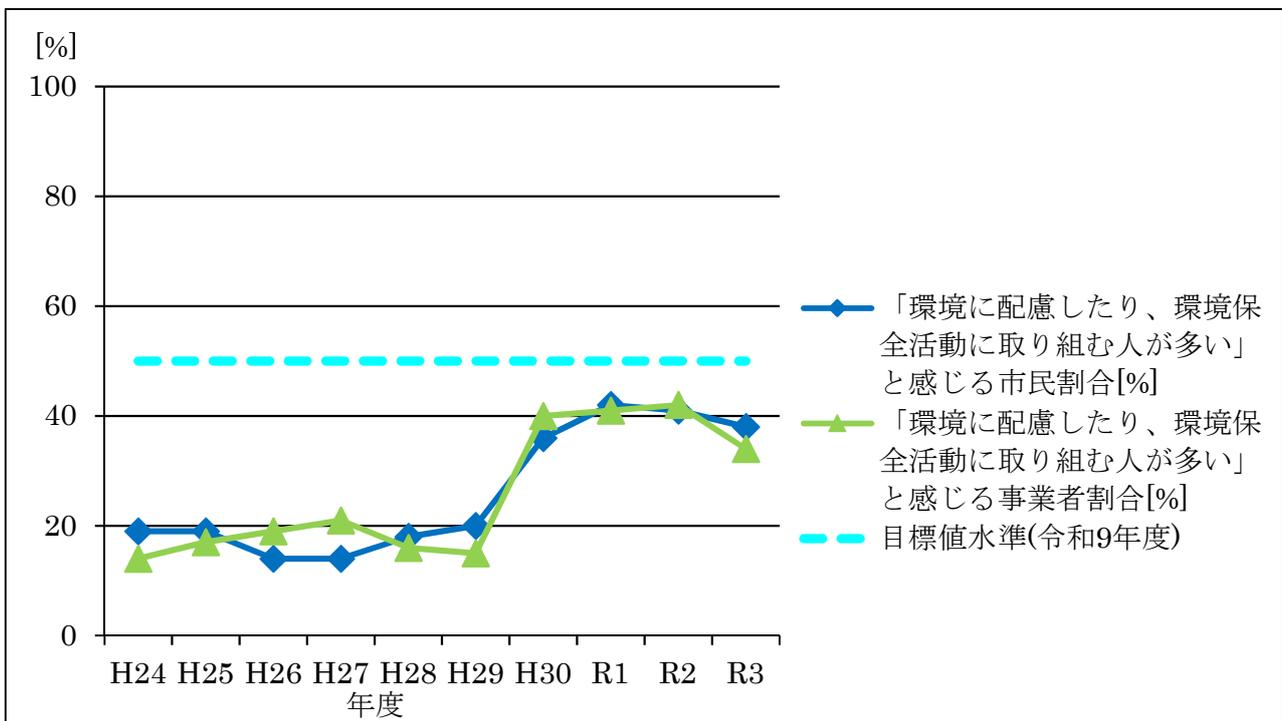
項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値
「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる市民割合[%]	(20)	36	42	41	38	50
「環境に配慮したり、環境保全活動に取り組む人が多い」と感じる事業者割合[%]	(15)	40	41	42	34	50

※アンケートの回答は H29 年度まで「思う、どちらともいえない、思わない」の3段階で「思う」の割合。H30 年度からは「思う、やや思う、あまり思わない、全く思わない」の4段階とし、「思う、やや思う」の割合。このため、H29 年度までの数値は参考値として()でくります。

【本年度の評価】 市民割合、事業者割合ともに目標を達成せず、前年度から減少した

【評価の理由】 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、活動を控える人が増えたからだと考えられる

【目標の確認のための取組】 市民・事業者アンケートの実施



《令和3年度の取組事例》

- ・理科・環境学習について、相談に応じ関係各課の協力を得ながら支援をした。
- ・新型コロナウイルスの感染予防に配慮しつつ、徐々に開催講座数も増え、参加人数も増加傾向となった。



大和市気候非常事態宣言ロゴマーク

大和市は令和4年4月1日に「大和市気候非常事態宣言」を行いました。
このロゴマークは、同年の夏休みに市内の小学校5年生に対してロゴマーク
の募集を行った際、北大和小学校の児童が作成して、最優秀作品に選ばれた
ものです。

やまとの環境 概要版

大和市環境基本計画年次報告書
令和4年度版（令和3年度実績）

発行 大和市

監修 大和市環境施設農政部環境総務課
神奈川県大和市下鶴間一丁目1番1号
電話 046-260-5493